

令和7年度第6回 感染症発生動向調査協議会

令和7年9月17日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2025年第32週～35週・8月）

＜全数把握対象疾患＞

- ・ 結核が23例報告あり（本年累計の対前年同期比100%）。年代別にみると20～29歳と80～89歳が4例ずつ（すべて発症例）と最も多かった。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症が7例報告あり。
- ・ レジオネラ症が6例報告あり（本年累計の対前年同期比255.6%）。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が6例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が2例、侵襲性肺炎球菌感染症が3例報告あり。本年累計の対前年同期比はそれぞれ119.0%、128.6%、132.0%である。
- ・ 水痘の入院例が4例報告あり（本年累計の対前年同期比300%）
- ・ 百日咳が120例報告あり（本年累計の対前年同期比26433.3%）。年代別にみると5～9歳が43例（うち23例がワクチン接種歴4回あり）、10～14歳が36例（うち25例がワクチン接種歴4回あり）と多かったが、0歳から80歳代まで幅広い年代で報告された。
- ・ E型肝炎が2例、日本紅斑熱が1例報告あり。
- ・ 梅毒は16例報告あり（本年累計の対前年同期比148.4%）。うち12例が早期顕症で（本年累計の対前年同期比144.6%）、男性9例、女性3例（10歳代1例を含む）であった。

＜定点把握対象疾患＞

- ・ 新型コロナウイルス感染症は、第34週に定点あたりの報告数が12.2となったが、第35週は10.5と減少した（前年同期比75.4%）。
- ・ 急性呼吸器感染症（ARI）は、定点あたりの報告数26.5（第33週）～38.6（第32週）の間で推移した。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月比は64.2%であったが、前年同期比117.8%、前々年同期比193.3%であった。
- ・ 感染性胃腸炎は、定点あたりの報告数5.1（第33週）～8.6（第32週）の間で推移し、前月比は80.2%であったが、前年同期比464.9%、前々年同期比343.9%であった。
- ・ 伝染性紅斑は、定点あたりの報告数1.5（第33週）～3.6（第35週）の間で推移し、前月比108.7%、前年同期比28757.48%であった。
- ・ 性感染症定点疾患は、同期累計でみると、性器クラミジア感染症はやや増加、性器ヘルペスウイルス感染症と淋菌感染症は減少、尖圭コンジローマは同じレベルで推移している。

2 検討すべき課題

- ・ 急性呼吸器感染症（ARI）の指標としての意義・解釈について
- ・ 病原体検出情報のフィードバックや発信のあり方について

3 情報提供すべき事項

- ・ 結核・呼吸器感染症予防週間（9月24日～9月30日）

(参考) 昨年のぎふ感染症かわら版（2024年9月20日）：

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/415434.pdf>

千葉県：

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekkaku/tbweek.html>

長崎県：

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/gosodanmadoguchi/madoguchi-iki/744406.html>

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 21 価肺炎球菌結合型ワクチン（商品名：キャップバックス）

- 8月に製造販売承認取得

<検討結果>